



すずかけ



令和7年6月13日

第5号

校長 鎌田 史顯

山形の教育課題の1番目は「学力向上」

今年度、山形県の教育長さんの話などで、何度も強調されている「山形県の教育課題」の1番目は「学力向上」で、2番目は「いじめ・不登校」です。学校だより第5号は、学校で一番大切にすべき「学習」「学力向上」をテーマにします。ぜひ一緒にお考えいただきたいと思います。

もともと山形県は、「教育県山形」「実践の山形」と言われ、先生方は教育活動に情熱を持ち、より良い授業づくりや授業研究に熱心に取り組んできました。他県で授業中に勝手に立ち歩いたり、先生の指示に従わなかったりするような「荒れた学校」が増えた時代でも、「山形では家庭と学校がしっかりしているから、学校が落ち着いている」と言われていました。学校と保護者・地域の皆様とが厚い信頼関係で結びつき、先生方の「子供たちのために」という熱い指導があれば、「学校の好循環」が生まれ、「学力向上」が実現されるのは当然のことなのです。

さて、全国学力・学習状況調査が2007年に始まりましたが、数年間、山形県は他の都道府県と比較で、小・中学校共に上位にランクインしていました。しかし、毎年大きく下がり続けており、**昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語で39位・算数で44位**となりました。これは正答率をもとに順位づけしたのですが、国語で1位の秋田県は「正答率73%」に対して、山形県は「正答率66%」、算数は1位が東京都「正答率68%」ですが、山形県は「正答率59%」で最下位の県と1ポイント差です。言い換えると、「この18年間で、学力上位の山形県が最下位争いをする状況になってしまった」のです。

全国学テは都道府県の競争がねらいではありません。しかし、全国で学習指導要領をもとに教育が展開され、同じ問題に取り組んだ結果が出るならば、正答率が高い方が望ましいのは当たり前です。そして、明確になった「正答率が低い分野や領域・問題」は、復習・補充すべきポイントですから、全都道府県、全市町村、全学校が全国学テの結果を受けて、改善策や具体的な「アクションプラン」を作成して取り組んでいます。

大郷小学校の現状はどうなのでしょう。県内でも山形市は正答率が高い傾向にありますが、本校は山形市平均よりも低い傾向にあります。昨年、学校だより第8号で全国学テの結果をお知らせしていますので、HPでぜひご確認ください。

その時の「児童質問紙での回答」で、大郷小の子供たちに顕著なものとして、**「家庭学習が不足している」「メディアの時間が長い」「算数は苦手」「自分の考えを整理したり、文字にしたりすることが苦手」**がありました。この課題は、現在も多くの児童にあてはまります。先日、低学年でも「オンラインゲーム」をしていることがわかっており、多くの児童が「LINEなどのSNS」「TikTokやYoutube」に多くの時間を費やしています。**「Fortnite」「LINE」「TikTok」「Youtube」などほとんどのゲームやSNSは「13歳未満での使用を禁止」としてはいますが、「自分でコントロールできない年齢だから」であり、保護者の監督責任が問われる大問題です。**

特に、**「自分の部屋でメディア機器を使っているのに、何をしているのかわからない」「家にいる時はずっと使っている」「頻繁にメールやLINEが来るので、布団に入っても使っている」「夜**

大郷小の児童の中に「宿題の提出率が低い」「学習用具忘れが多い」傾向が強く、なかなか改善できない児童がいます。義務教育の9年間は、学習でもスポ少や部活動などでも、「成果を得るためには、何か我慢してでも精一杯努力する」ことを覚える時期です。中総体や高校受験前に夜中まで SNS やゲームをしている人は、良い結果を得られるはずがありません。「自分の将来を切り拓く」「自分の夢の実現」のためには、「目先の楽しみや喜び」ではなく、「自分のために、努力を積み重ねる大切さ」をぜひ教えていただきたいですし、ゲームでは得られない「自分の成長」「努力の成果」という『ここからの喜び』を、義務教育の期間に体感させたいのです。

学習習慣を確立し、基礎的な内容の定着を図るために、保護者の皆様にお願ひがあります。

⇒「何度も言っているんですけど…」「本人はしたって言うんですけど…」は、保護者が直接関わっていない方がよく言う言葉です。「子供のために、できるまで」必ず付き添ってください。

全国学テで毎年上位の秋田の教え